



南畝莠言

上

な
二

15
1551
1



門 1551
號 1

蜀山先生隨筆

文寶亭筆錄

方寸養言

眾星閣梓

37-2042

南畝養言引



予幼好讀書。家貧乏書。或借友人。或閱諸

市中。歲節縮衣食。購得書卷。世故紛紜。老

亦至矣。自少至老。抄書不倦。遇見警觀。皆

即疏記。積為數卷。管公不云乎。學問之道。

抄出為宗。予竊欽焉。又寶亭見而悅之。与

圭埒。亦是苦課。但抄隨刻。且。而示之。流

觀一過。不復詮次。而亦。不常。送秉

序

淨穢。其於苑苑也。若苗之有莠也。名曰莠
 言者为了也。吁。歲垂七十。而不若一兒。不
 為一事。此驕者。亦是自口。固不足取笑
 於大方也。恐指摘於考據之家矣。唯使吾
 家兒孫。謂祖翁亦解讀書則可矣。丁丑小
 春。杏花園主人識。

南畝莠言卷之上目錄

- ① 二十六夜の二尊の光
- ② 八朔十五夜十三夜の各名
- ③ 七ツ目の干支
- ④ 時雨のやゝみ發句
- ⑤ 紫門ハ紫のトあると
- ⑥ 人間六十二年の身
- ⑦ 歳旦并年号の一字十二支と配く年と記す
- ⑧ 道澄寺の号
- ⑨ 寺号あまの必山号あり
- ⑩ 屋造の例柱と忌
- ⑪ 酢吸の三聖并圖

① 楓橋寺
 ② 徒然草ツルナガサの雪ユキのカタ并ナ鎌倉聚楽カマクラジュラクのコ又マタつねに
 ③ 草クサ牛ウシのオノ鹿カ子コ入イル
 ④ 六十年目の曆コヨミと用モチ申マシす
 ⑤ 水ミヅ引ヒキ
 ⑥ 紙カミ鷲シウと放ハナツ子イト多オホとオホくく
 ⑦ 鐘カネと鑄サレ子メ女メ人ニと長イ石イシ
 ⑧ 芥カイのオノ丸マ屋ヤ
 ⑨ 倡妓シヤウキの名ナと世ヨ々イ々イ
 ⑩ 火ヒの用ヨウ心シンのミ水溜ミヅタマ桶オケ
 ⑪ 舟フネのオノあゆイむマ板イタ
 ⑫ 善財ゼンサイと道具ダウグとイ

⑬ 其ソノ刀タガのオノ大ダイ小ショウ
 ⑭ 其ソノ神カミ田タ明メイ神ジン
 ⑮ 其ソノ人ジン事ジ
 ⑯ 其ソノ南ナン掌シヤウ國クニ々イ々イ清朝セイチャウへ象ゾウと貢ミツギと
 ⑰ 其ソノ名ナ画ガは對ツイ幅フク々イ
 ⑱ 其ソノ色イロ紙シ々イ々イの
 ⑲ 其ソノ館アタリ賣ウリのオノ笛フエと々イ
 ⑳ 其ソノ文フミ箱ハコのオノ蓋フタ上ウヘのオノ漆シ
 ㉑ 其ソノ人ヒトのオノ家イ居キのオノ床トコ柱バシラは皮カバと々イ々イ用モチ申マシす
 ㉒ 其ソノ瓜ウリと喰クハ子オニ鬼オニと々イ々イ
 ㉓ 其ソノ系ケと麋シヤウ章シヤウ牙ガと々イ々イ

⑤ 禾と八木と

⑥ 藏の棟木と

⑦ 書状子恐悦の字

⑧ 童子の戯目比膝挾

⑨ 鬼ごっこ戯

⑩ 早鶴乱と博乱と

⑪ 瓜戦

⑫ 瀬戸物

⑬ 前裁前水

⑭ 憑子

⑮ 五色の月笠

⑯ 夏の雨馬の背と

⑰ 牧のゆい

⑱ 唐の双陸并圖

⑲ 正月の三氣の

⑳ 子親分

㉑ 辻番の布子

㉒ 俵の字

㉓ 尾刈熟田の楊貴妃の祠

㉔ 今所よある發句の研

㉕ 南禅院の名木

㉖ 陶淵明の菊王子猷の竹

㉗ 峯と一字

㉘ 峯と一字

⑤ 茅屋根と改く尾屋と云々の令

④ 画の標榜

③ 古列女傳周室三母の傳文

② 具足櫃子春画のしり

① 今十七史と宋遼金元四朝別史と加く廿二史と云々の

① 多と出と上と降と云々の

① 土佐國同年の侍二人の働

① 不成就日

① 日觀要考

① 細敷天神の讚岐圖座

① 上利劍

① 布袋川のしり

① 春抄四月朔日と

① 本卦のしり

① 大師河原の碑

① 鶴満丸の名

① 辰摺石并圖

① 須磨寺の別札

① 自休兒の測

① 國號子陽の字と用

① 前明のしり語

① 一種の七種

① 太閤秀吉公清見寺の和歌并序又西三條實澄卿の詩

① 石川文山扇の銘

- ⑤ 徂徠古今集とくわん
- ⑥ 狂歌集と南郭の序
- ⑦ 和歌と詩と譯と
- ⑧ 新井白石容奇詩
- ⑨ 干果子
- ⑩ 味噌
- ⑪ 經
- ⑫ 山椒
- ⑬ 菊の葉のつけあげ
- ⑭ 葛蒲茶
- ⑮ 足利学校易の事

卷上目録畢

- 卷下目録
- ① 昇平昇平の文字
 - ② 平相國の法名
 - ③ 松殿撰政資盛と束合の異同
 - ④ 尊氏公安國寺とくわん
 - ⑤ 海水赤色と変じと
 - ⑥ 香月牛山西瓜の事又松園玄達薬と徂徠子贈と持
 - ⑦ 普濟寺の石幢并圖
 - ⑧ 武州赤塚大堂の鐘銘
 - ⑨ 古の寺社の数
 - ⑩ 南郭翁のわん文
 - ⑪ 新宅二年煤とくわん

- ① 達磨忌
- ② 八丈島為朝の遺物并圖
- ③ 再昌院北村翁の墓
- ④ 東坡三度赤壁子持下
- ⑤ 依枕の養生
- ⑥ 古人雪舟の画と賞し
- ⑦ 史記抄子あし史記家漢書家并師行未師行の事
- ⑧ 同書子あし一應仁の乱の實録
- ⑨ 朝鮮板の法華科注三百年餘の本
- ⑩ 山谷の書と字の事
- ⑪ 元貞寺の鬼面并圖
- ⑫ 一節切尺八の考と并圖

- ⑬ 調子肝要の事
- ⑭ 人みくみの扇帑子書
- ⑮ 美濃と近江の寐物語
- ⑯ 美濃の念佛橋
- ⑰ 目黒の地名
- ⑱ 藤文公の領分并漢の世物價の考
- ⑳ 乾隆の初麒麟出の事并圖

總目錄畢

又五山の僧徒... 延徳三年... 丁酉と仁亥と... 紀一万里の帳中香子... 徳西とあるまゝ... 格古要論二卷... 趙景安雲麓漫抄引唐野史載智永所居之寺曰重門會誓志則云智永與其兄惠欣本住郡之嘉祥寺右軍舊宅也梁武以二僧能從釋教合二名改賜額永欣云以方州... 和州... 道澄寺の鐘の銘云云

道澄寺者從三位守大納言兼右近衛大將行皇太子傳藤原朝臣參議左大辨從四位上兼行勳解由長官播磨權守... 橋朝臣為報四恩濟六趣合誠戮力所建立也故各取其名首字以為此寺額題所以貽本緒於來代期同志於他生也按之... 道澄寺と名づけし永欣寺の... 又因樹屋書影曰唐碑制度極多有二人製序一人製銘者故尹師魯志張克夫墓序而歐陽為之銘嘗考張文集所為上官昭容銘其序則蘊題作也此可以證... 本朝高雄山の鐘の橋廣相の存... 菅原是善の... 徐氏筆精... 誌... 九 明禪友夏嶽歸堂合集の中... 重修寶峰山觀音寺碑記云... 邑志載寶峰山觀音寺創自天順年間而今所謂十八灣觀音

九 明禪友夏嶽歸堂合集の中... 重修寶峰山觀音寺碑記云... 邑志載寶峰山觀音寺創自天順年間而今所謂十八灣觀音... 誌... 九 明禪友夏嶽歸堂合集の中... 重修寶峰山觀音寺碑記云... 邑志載寶峰山觀音寺創自天順年間而今所謂十八灣觀音

之奇惜未能操筆賦之耳

又隋園詩話卷云余自幼聞月華之說終未見也同年王大司農

秋瑞夢月華而生故小字華官後見平湖陸陸堂先生云康熙辛酉

八月十四夜曾見月當正午輪之西南角忽吐白光一道已而紅光紺

碧約有二十餘條下垂至地良久結輪三匝見月不見天矣先生賦云

今宵才見月華圓織女張機也失妍五色流蕪齊着地三重輪廓欲

弥天先生名奎勳云云 余のりく明和八年辛卯九月十日我子

小島橋洲名茶徒 今のりく子の時をりく月華と云

其のりく五采のりくあまのりくこころのりくささるりくささるりくささるりく

主松名樓之子也のりくあまのりくささるりくささるりくささるりく

巽續博物志云俗以五月雨為分龍雨一日隔轍雨按此云此方

之りく夏の雨の馬の背と云るりくささるりくささるりくささるりく

巽世俗のりくささるりく正月のりくささるりくささるりくささるりく

あまのりくささるりくささるりくささるりくささるりくささるりく

ささるりくささるりくささるりくささるりくささるりくささるりく

ささるりくささるりくささるりくささるりくささるりくささるりく

ささるりくささるりくささるりくささるりくささるりくささるりく

ささるりくささるりくささるりくささるりくささるりくささるりく

ささるりくささるりくささるりくささるりくささるりくささるりく

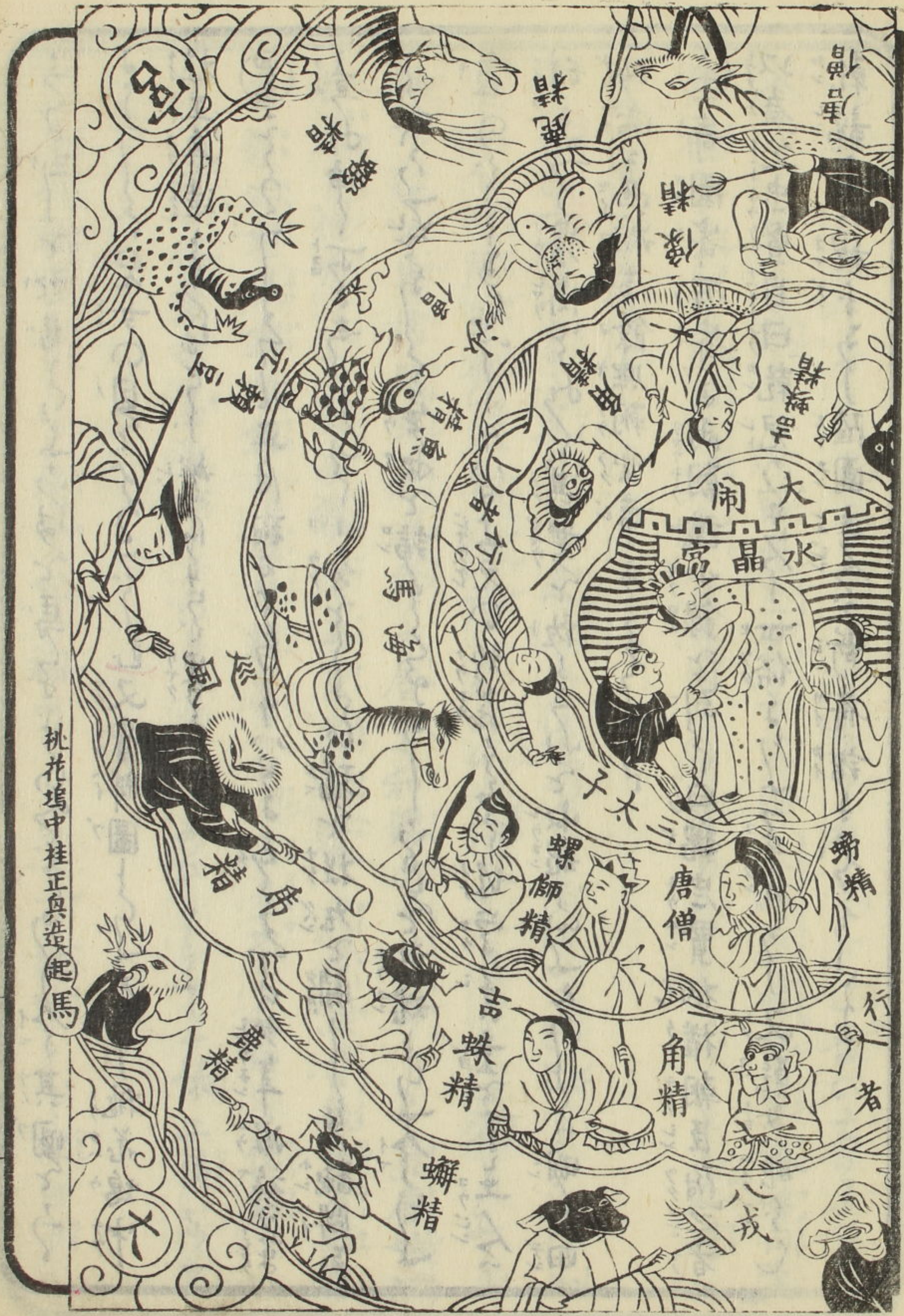
ささるりくささるりくささるりくささるりくささるりくささるりく

ささるりくささるりくささるりくささるりくささるりくささるりく

巽五雜組子唐の李邵が散子選格あり宋の劉蒙叟楊億等が彩選

格あり今の聖官圖ありあまのりくささるりくささるりくささるりく

圖あり近比水晶宮あり西遊記に似たり



桃花塢中桂正與造起馬



大水晶宮圖

文室亭縮圖

ふら出と起馬ふらふらと馬子ふらふらと今其國を
よつて〜児女の目と〜又骨牌圖〜桃花塙中
桂正貞造と〜繁〜

正月朔日十八日少年遊法の事
意の申〜瑠璃と投丸と闘〜
ふら〜放魂〜
氣の〜十八日の折紙〜
其業を執〜
海成の西湖志餘熙朝樂事〜

寄園寄所寄は兩朝識小録と引〜
日魏忠賢柄權朝臣附之者
以為父忠賢目曰乾兒の事〜
乾親家親〜
隨園主人が新奇諧子〜

郵俗のり〜前白〜
鶴林玉露云京師久雨忽晴兒輩呼曰黃
綿襖子出矣注謂曰暖也〜
〜

俵の字字書子采芭の名と〜
甲陽軍鑑三言松山陣の俵子の者〜
馬端臨文獻通考子唐宋和雜の論〜
和雜充他用于宋而雜逐為軍餉儲邊一大事熙豐後始有結雜
寄糶均糶俵糶博糶充糶拈糶等名何其多也この中俵糶〜
〜俵敷の〜
〜俵二俵〜

屋列熱田古楊史妃の祠〜
〜元祿中〜
林の中子

五輪の墓石ありて楊妃の墓といひ傳へて其の神職あり

寄園寄所寄云奇雲天門奇勝巖下碑碣墳墓可厭遊人好題亦

是一併任其王者董習成風朱書白榜卷石皆徧冷人氣短余謂律中盜

山伐鑛皆有常刑俗士毀汚山靈而律不禁何也解麟今亦あり誹諧

師の愛白の碑と又此の墓ありて

聖僧万里の帳中香下之移竹詩の注云本邦龜山法皇於東洛龍阜之離

宮南禅院聚吉野櫻難波葦立田楓任吉松等哉泉石之池邊丁亥駿層以

来不存一株哀哉丁亥駿層の意仁の乱あり

美陶淵明の菊王子猷の竹林逋が梅用菴叔の蓮人ふふふふふ

陳白沙の木犀花とて一禪女夏の紅曼とて其詩とて

聖尊作殿切音層俗謂屋斜用竿以土石遮水亦曰竿篇海伴亦

作播非と字通とす僧義堂日工集と伴明樓とあり今

俗語よツカフとありて是れスケカフの音の轉とあり

美峠と字甲陽軍鑑と到下とま即雲日伴録と江文塔と

あり中國と峠とありてタラとあり峠市佐野のタラとあり

タラとあり

美玄宗時宋璟為廣州都督廣州旧俗皆以竹茅為屋屨有次

災環教人燒瓦改造店肆自是無復延燒之患人皆懷惠立頌

以紀其政と旧唐書本傳とありて抄とありて武蔵所

をとも子茅を根を改とありて今あり

卒佩文と書画譜と孔子見老子画像人物七車二馬三標榜四推老

子後一榜漫滅云云抄とありて標榜とありての文とあり

画一今画園とありて方園とあり

城責ラる時暗元モ讚岐守畠山経列モ自身亦タチ教日取春セメタ
三ハハ母城モ叶ハズシテ望ヲ上テ降ヲ請ケリ按じしに望と出
望とよきしりつて降とよきしりつて望と出

⑤ 長元記云土佐幡多郡歳同年之侍二人此親ハ討死也高知行ノ跡ナ
レハ役儀之人數召列從歳十三陣ニ立テ十六歳ノ正月ニ北川三瀬ノ城乘
入時二人ハ本丸ノ一番乗也去共諸人ニ被追立処ニ立返ノ乗時モ一番
乗也諸人見南井沙汰耳此光富ト云人ハ物大將之嫡子也後ニ光富權
之助而二人之指折ニ入大將也同年之今一人ハ國人之嫡子也北川殿為被
居ニ之丸へ乘入処諸人敵ニ被追立散ニニナル時以鐵二本突ハテ見テ
彼人之被官漸ク一人返來テ主人ヲ助退防所ヲ敵鐵二本ニテ切
岸へ彼被官ヲ突角ル其時ニ主人十六七間返シ來テ彼被官ヲ助
タリ此被官鐵痕ヲ二十七ヶ所負共此時不死一先ハ被官ニ被助

一先ハ主人被官ヲ助ク主從ノ有様ヲ陣中ノ諸人此沙汰耳如
件按じし土佐軍記二人の指折ノ素名弘次多清光富將ノ助
幡多郡立石右京進十六家北川子孫ノ二の丸乗付ニ追立敵の鐵
二本ノ突ハ被友子織部ト云者アリ來テ敵と追拂ク主と助ク
其後織部切腹シ鐵二本ノ突誘リ討死ト云と右系進
切くしつて掃ハ織部と云けしつて織部ハ清春廿ヶ所手
肩しつて肩退しつて右系進助多清ノ主從の御供多し織部
も不死りし長元記ハ主と助多清の自記アリ一の由色今一人と主と
姓名と長元記ハ主と助多清の自記アリ一の由色今一人と主と
寛文板の大雜書と云ふもの


~~~~~

四日十日十八日廿五日  
八日十廿廿二日廿九日

此日ものこと... 又似我蜂物語

四夜八朝... 小田系記

馬助... 海の中界

山同... 天正十八年

こゝろ... 不流

日觀要考一卷の朝鮮人延享末聘の日記

大井川 水俣架浮幸卯行阻漲二日

山水 山皆發祖於東北故地東高西下山大曰富士

崎陽子... 附中國九列

韓客の撰其要... 僧義堂の日工集

北小軒游息処不愁座客欠罷鈍... 像子綴

~~~~~


いづれも又僧横川が京華集六卷讚岐國福家藤盛顯列之望
族也其所錄歌地曰圓坐公築別墅於是輞川平泉可併業焉
護岐圓坐の

⑤ 世に劍み来し仙人の圖と名づく上利劍とて誤ありはらむ呂純
陽の海とて傳ふ明雲間王嘉侯會詩話類編子王文恪
公年十二能作詩有以呂純陽渡海像求題者公援筆書曰扇
作帆手劍作舟飄然真渡海洋秋饒他弱水三千里終到蓬萊
第一洲公之氣宇已見乎此多上利劍の名杜撰系
了の列仙傳の鍾離權とて清の王阮亭が香
祖筆記卷陳仲醇云溧陽人家有鍾離權昼花押如一劍狀別
是神仙亦有押字と利劍の名なりはらむ誤也
⑥ 佛祖統紀云布袋背上有目水戲之時人知之今布袋の

了の

⑦ 長崎の竹の画り質と清の胡北新書

乙丑春抄四月朔日

凌霜盡節無人見

終日虚心待鳳来

蘇門 胡北新書

乙丑文化二年の四月朔日

清の江泰交類が画梅蟹の画子花甲重逢乙丑春法元人筆

長崎山々西遊記第二十回三藏問道老施主高姓老者道姓

王云又同年壽幾何道痴長六十一歳行者道好二花甲重逢美

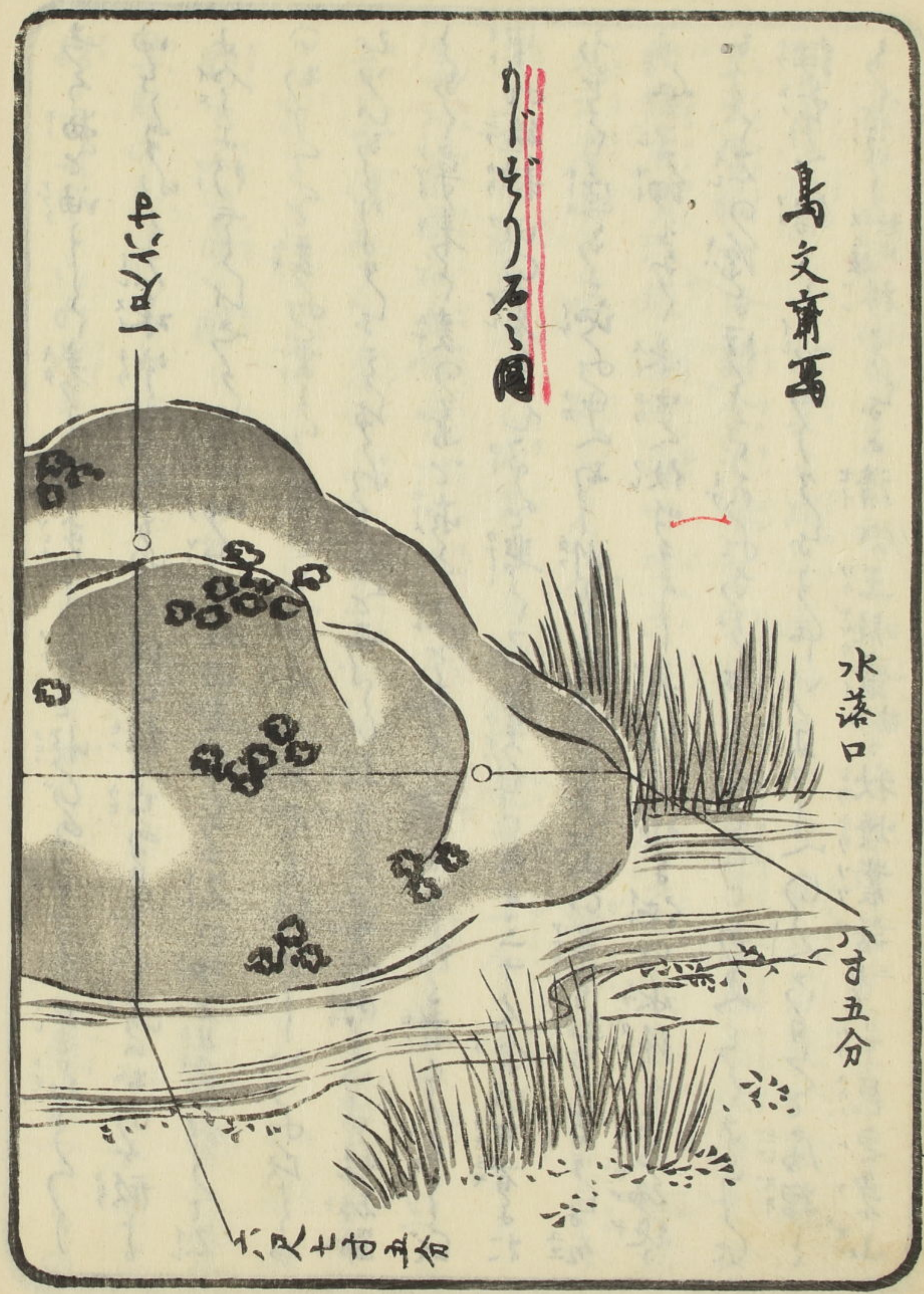
の詩あり此方の人本卦

の詩あり此方の人本卦



長一丈六寸

⑧



鳥文南馬

石一尺

水落口

寸五分

六尺七寸五分

活字
抄
札
抄
④

酒方考

此為江南所產一

枝於折盜之輩者

任天永紅葉之例

茂一枝者下芳

一梢

嘉永三年二月日

文宝縮字

是より明少ホア

同書又云八居題詠附錄新井白石容奇ノ詩アリ曰

曾下瓊鉞初試雪 紛ニ五節舞容前

一痕明月茅溥里 允片落花滋賀山

提劍膳臣尋虎跡 捲簾清氏對龍顏

盆梅剪尽能留客 滌得隆冬無限艱

近刻日本詩史以此詩ヲ載セテ曰白石冬日人ヲ訪フ主人容奇ノ字ヲ

昏メ示ス白石是雪ナルヲ知テ此詩ヲ賦スト杏園主人就子鬢子儼

紫氣

日下曾生第二尊 雲樣攀尽向天門

風光浪冷須磨浦 草色秋深武野原

回首晁卿望本國 經年在五哀王孫
何人更伐庭前桂 逐族良霄對酒樽

法乃

朝然初發一枝花 百世流芳勢海涯

寧樂生連吉野 分山霞起隔高砂

旧都寂ニ烟波冷 春宴朧ニ夜月斜

芸得幽魂化為蝶 他生猶自在江家

東海平子文 條崎金吾 朝野雜記云上世ノ干菓子四品アリ其

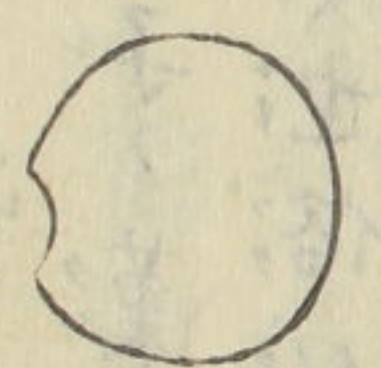
形左ノ如シ



謁籠



桂心



渾沌



加久繩

① 菊の葉と油の漬あげて今五雜組に今人有采菊

葉煎麵茶食之者其味香而勝枸杞餅也

② 菖蒲茶とりの五山の傍の詩集より京華集云菖蒲茶

端午浮福住山終邊旬有茶多酒過佳辰菓菓重九菖蒲五

椀中菖萬斛春又靈梅集云菖蒲茶半升鑪内煮輕柔攪二蒲

茶飽即休九節買苗供一啜蜻蛉歎立釣竿頭又蒲葦蒲劍蒲

帶等の詩より

蒲葦 端午

九節編成隨白鷗浮生四海一菖裘漁翁披得避風雨放立蜻

蜓亦自由

蒲劍 伊州安國堂西梅室獨吟百首

天下曾冷三尺安蒲池蒲葉莫兼干晚風振起青銛影水底蛟

龍騰可寒

蒲帶

風蒲一帶結依二刑楚兒童端午衣為吊灵均吾太瘦青二莖

寸減腰圍

菖蒲と莖と太刀と帯とつらつらけ方の古六衛府の菖蒲

輿とつらつら菖蒲の枕と結び類とつらつら

③ 足利學校よりあふの歸藏抄易の玉彌注でけはなま講義とま

来のつらつら季菖蒲を巻の末に文明丁酉十月廿日始之土月廿日終之蒲

翠亭子とつらつら菖蒲と云葉印あり其講義の中子間く蒲のつらつら

不のつらつら需の上六ノ條ニ云録倉ニ易ヲ聞時我師ヲ喜禪ト云メゾ其師ヲハ

義基ト云メゾ其喜禪ノ語ヲレタハ我易ヲ傳ル寸ニ録倉持氏ノ乱ニワウゾ

其時探著天下ノ乱ヲ占フ時コノ需ノ上六ニワウツ有^{アリ}不速客三人来^{キタル}云^{ヨリ}自^レ尔^レ以^テ
 来^カ不^ミ見^ル其^ノ可^ク否^ク後^ニ鎌倉ノナリヲ御ラセヨト云ハレタリ又^ニ其^ノ後^ニ重氏^ノ出^テ頭^トノ
 時^ハ是^レ利^ニライテ易^クヲ構^フズル寸^ヲ持^チ氏^ノ時^ノ莖^ノヲヲサタスルニ其^ノ占^ル符^ノ節^ノ
 フ合^ハセタルガ如^クシ其^ノ故^ハ重氏^ノ出^テ頭^ト兄弟^ノ三人^ノ不^レ速^ク来^テ重氏^ヲ杖^{タリ}
 弟^ハ美濃^ノ土岐^ニ養^セラレテ雪^ノ下^ニ殿^ト云^タ一人^也聖道^テアツタゾ又^ニ
 ノ弟^ハ僧^ガ一人^アツタゾ又^ニ重氏^ノ一^ノ兄^ガ美濃^ニアツタゾ其^ハ俗^人ゾ以上
 三人^来テ重氏^ヲ杖^タゾ重氏^ツシミテ居^ラレタニヨツテ貞吉^也今^ニテ
 無^ク為^ルナルハ奇特^也易^クヲ信^ジテ著^ラト^ラバ違^フハアルニイゾと云^フ此^ノ事^ハ
 新^キ楽^{サウ}閑^{サウ}叟^ノ話^{ナリ}

南畝著言卷上畢

